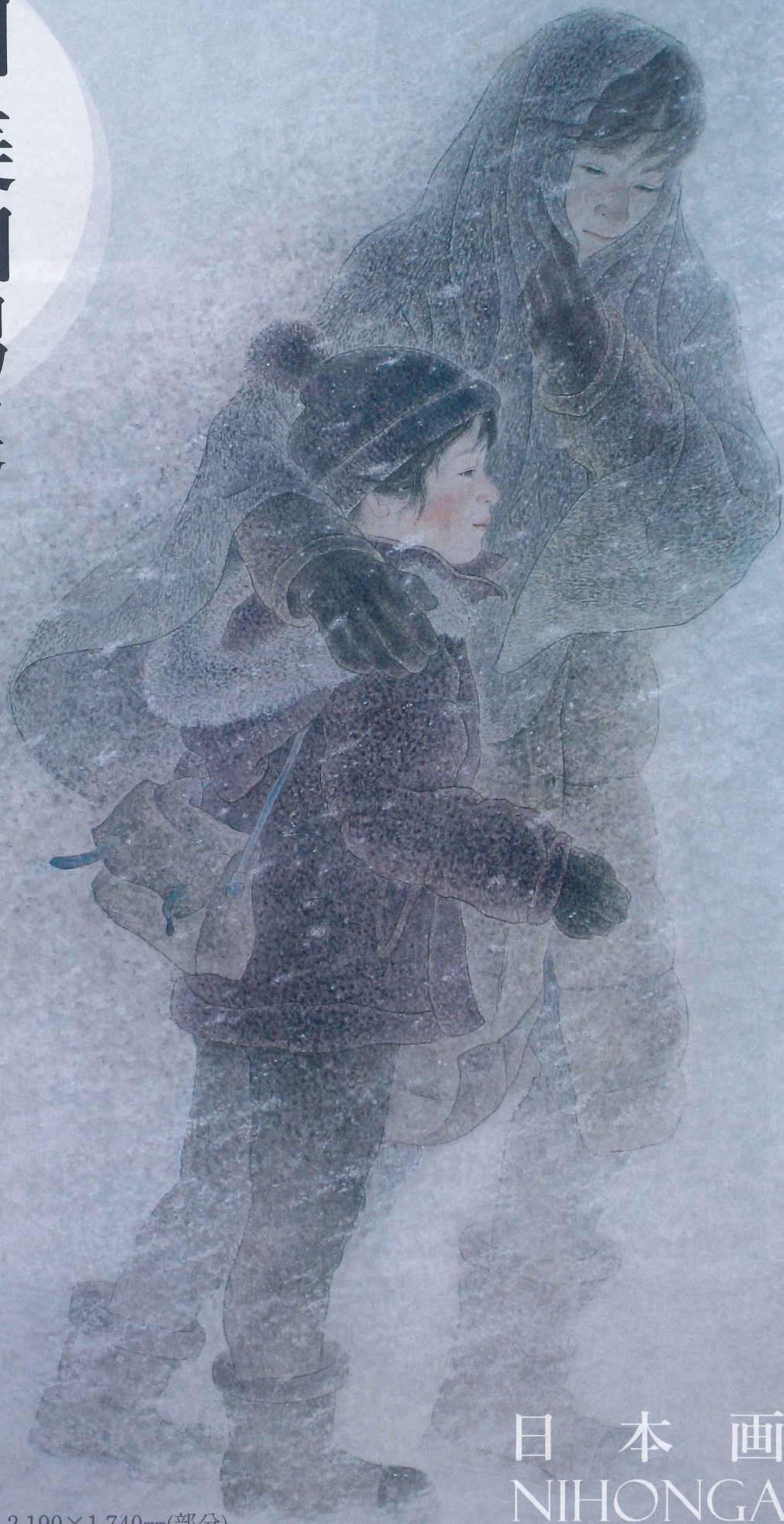


山田美知男展

るる
縷縷



会期 2020年9月20日(日)～10月25日(日) 会期中無休

午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

会場 仙北市立角館町平福記念美術館

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4

☎ 0187-54-3888 FAX 0187-54-3890

入館無料

同時開催 常設展
平福穂庵・百穂父子展

〈主催〉

仙北市・仙北市教育委員会

『前へ』 2,190×1,740mm(部分)

日本画
NIHONGA

山田 美知男 (Yamada Michio)

1978 秋田県角館町生まれ
 1997 秋田県立角館高等学校 卒業
 2001 東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース 卒業
 2003 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科 修了
 2003 大学院修了後帰郷し活動を始める
 2011 日本美術院院友推挙



「残像の記憶」1,820×3,640mm



「雨の姉妹」1,000×1,000mm 個人蔵

【主な展覧会】

- 2009 「再興第94回院展」東京都美術館(東京都上野)
 (以降第95・96・97・99・100・101・104回)
- 2010 「第65回春の院展」三越本店(東京都日本橋)
 (以降第67・70・71・72・74・75回)
- 2010 「第5回前田青邨記念大賞」東美濃ふれあいセンター
 (岐阜県中津川市)
 (以降第6回)
- 2014 「昇龍會展」天心記念五浦美術館(茨城県北茨本市)
 (以降毎回出品)
- 2015 「今野忠」とその周辺展「天童市美術館(山形県天童市)
- 2016 「はんばの会日本画展」角館町平福記念美術館(仙北市)
 (以降2019年)
- 2016 「あきたの美術2016」秋田県立美術館(秋田市)
- 2019 「山田美知男展」(「仙北市」)アトリオン(秋田市)

【受賞等】

- 「院展」入選8回
- 「春の院展」入選7回
- 「第5回前田青邨記念大賞」入選
- 「第6回前田青邨記念大賞」優秀賞
- 仙北市芸術文化協会 栄光賞
- 東北芸術工科大学卒業作品展 優秀賞



「親子」1,620×1,620mm

息(いの)「い」

厩舎は家畜たちの呼吸でむせ返る。
 冷気の中、娘たちの吐息がたゆたう。
 山田美知男はその息づかいに、何を探し求めているのだろう。

古に「いる」とは色彩にあらず、母を同じとする兄弟姉妹の接頭語だった。誤用か転用か、それとも印象なのか艶やかさ、美しさの意味をもつようになり、いつしか「色彩」に転化したという。

血脈の意味をもつ「いろ」を考えたとき、「い」の字には「いき」「いきる(生)」「いのち(命)」というように、「生」と関わる言葉があると思えた。中でも「息」だけは見えるものである。眼に見えぬ血脈と眼に麗しい色彩を「いろ」という同音括った日本人の感性は、現代を生きる我々にも受け継がれているはずだ。

草や木、鳥や獣、石ころにまで魂があると先祖は敬ってきた。家畜としての運命が定められている獣にも心通わし、慰霊を祀ってきた。しかしそれは、終に息づかいが止まるのを憂い、恐うものではない。おそらく死にゆくもの「息」を引き継ぎ、生を全うすることである。己の死に際して「生」を末裔に引き渡すことである。山田が作品に寄せるもどかしい思い、探し求めるものは「い」の字に込められた日本人の死生観につながるものと言えるかもしれない。

山本 丈志

(美術史家・秋田県立博物館学芸員)

山田 美知男展「縷縷(るる)」

自然や生物も絶えずすべてが繋がって現在の姿があります。雪国に暮らす中で幼少期から現在まで感じてきた光景を作品にしました。今回は動物と人物を中心に制作した作品をご紹介します。まだまだ発展途上の作品群ではございますがご高覧いただければ幸いです。

会期:2020年9月20日(日)~10月25日(日)会期中無休
 午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

会場:仙北市立角館町平福記念美術館

主催:仙北市・仙北市教育委員会

入館無料

同時開催 常設展
 平福穂庵・百穂父子展

